

道徳の教科化に関する以下の4つの新聞の社説を比較考察してください（最初の比較考察の段階では新聞名は伏せています）。

「道徳」の検定 教科化で窮屈になった

文部科学省は「考え、議論する道徳」をめざすという。その取り組みが、この検定意見であり、この教科書なのだらうか。

道徳が来年春から教科になるのに伴い、文部省が小学校の教科書の検定結果を公表した。

話し合ったり、発表したり、主人公の役を演じて考えたりするなど、学習方法ははたかに多様になった。

しかし、肝心の内容は学習指導要領にがっしり定められた。検定の具体例を見てみよう。

指導要領は道徳科の内容として、「正直、誠実」「節度、節制」「礼儀」「感謝」などの徳目を定めている。

他の教科と違い、「わざわざ客観的・科学的根拠があるわけではない。だが指導要領に書かれてくる以上、教科書はすべてを網羅しなければならぬ。一つひとつ加えて検定意見は、一つひとつ

この徳目の説明に書かれている具体的な事項にふれていなければ、**「不適切」とした。**

例えば、指導要領は「感謝」の対象として高齢者を挙げる。このため元の教科書にあった地域の「おじいちゃん」への感謝は、「おじいちゃん」を書き換えられた。町探検で出会った「オジサン」は、「伝統と文化の尊重を理由に」「こたえていきま

せよ」の店に変更された。あまりのしつこく定規通りに驚く。「考え、議論する道徳」の最初の教科書が、こんなに窮屈な検定姿勢から生まれるとは皮肉以外の何物でもな。

国が指導要領で徳目の内容を定め、それに基づいてつくられた教科書を改めて国が検定する。この二重の縛りが、お仕着せの教科書を生んだ。朝日新聞の社説は「道徳の教科化」に疑念を投げかけてきたが、その思いは

深まるばかりだ。道徳の狙いは、「いかに生きるか」という課題に子どもたちを向きあわせることにある。文科省が決めた徳目の枠内に、そもそも収まるはずがない。

教員には教科書を使う義務があるが、文科省も独自の教材の使用を禁じてはいない。あらかる目的の児童・生徒から出発する姿勢である。一人ひとりの子どもたちと向きあ

う状況で踏まえ、身のまわりの出来事も素材にして、胸に届く指導を試みてほしい。

教育委員会や校長には、現場の意向を最大限尊重し、工夫の余地を確保してもらいたい。考え、議論する力を本気で育てたいのなら、成長段階に応じた教科書の内容そのものを疑い、批判的に読む授業も認め

てほしい。

学べるよう盛り込んだ。高齢者への尊敬や感謝の気持ちに関する内容も少なくない。先人への感謝や、人々の支え合いで暮らしが成り立っていることなどだ。

正面を説く「道徳」は「金」の差が「一」つた伝統的な物語以外に、「夢」をテーマにしたプロ野球の太極拳選手を登場させるなど、興味をひく工夫もいろいろある。教材研究を通じて、指導法を含めいろいろな改善を期待したい。

科学技術の進展やインターネットで情報があふれる時代である。大人も判断に迷う問題が多い。政治や経済の不祥事や「道徳」の名が問われる場面も目立つ。

次代を担う子どもたちのため、保護者も教科書を手に取り、徳育の大切さを再認識すべきだ。

道徳教科書

正式に教科になり、2018年度から小学校の授業で使われる「特別の教科 道徳」の教科書24冊の検定結果が公表された。

偉人伝や従来の教材を「読む」道徳から、討論などを積極的に取り入れる「考え、議論する」道徳への転換を反映し、工夫が見られる。

一方で、検定は「内容項目」の記述について細かくこだわった。計24冊の意見が付いて部分的に修正され、全冊パスした。

内容項目は道徳の学習指導要領で示す基準で「正直、誠実」「親切、思いやり」「家族愛、家庭生活の充実」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」など27項目あり、それぞれ具体的に表記したものを学年段階に応じて学ぶ。

「こたえていきま」の記述を深き

「こたえていきま」の記述を深き

合わせる、首をかかげるをえな

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

「こたえていきま」の記述に

持ちや態度、規範は一律に定めた細かな項目学習だけで体得しうるものではない。

今回の全道徳教科書がいじり問題を

を取り上げているが、地域、学校、

教室によってそれぞれの実情があり、

現場の先生たちの取り組みはさま

ざまである。

教科書は「主たる教材」と位置づけられているが、その上工夫の授業や指導を組み立ててこそ生きる。

また、道徳を教科化するこ

とは検定教科書とともに「評

価」を伴う。

道徳は他の教科と違って個人の内面の動きにかかわるものであり、点教評価はなじまない。唯一の「正解」というものもない。

先生による評価は、子供の成長した面や長所、改善を促すことなどを文章で記録し、他の子供たちとは比較しにくい個人内評価にする。もちろん、受験の資料にもしなく、その見守る目には、細かく縛られぬ、学校教育現場の実情に応じた量が不可欠だ。

で扱う際には、学級の状況に応じた配慮が重要になる。

各教科書には、文部科学省の教材などで数十年も使われてきた物語や昔話の再掲が目立つ。初めての検定だけに、教科書会社は合格を意識して、学校現場で定着しているものを選んで傾向がうかがえる。画一的な印象は否めない。

一方で、電車とホームの間に挟まれた女性を救出しようとする、乗客が力を合わせて車両を押す様子を捉えた新聞の写真が、教材になった。助け合いの大切さを伝える内容を拡充する必要がある。

ベテラン教師の大量退職で、若手が増えた学校も多い。新しい教科書を生かすためには、教師の指導力向上が欠かせない。研鑽の機会を拡充する必要がある。

容だ。東日本大震災の被災体験も多くの教科書で扱われている。

子供の心に響く、身近な題材を選ぶ工夫が求められる。同時に検定結果が公表された高

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

型に縛られない授業を

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

考えて議論する授業の土台に

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

道徳教科書検定

【出典】

- ・「道徳」の検定 教科化で窮屈になった（『朝日新聞』2017年3月25日・朝刊）
- ・道徳に初教科書 楽しく普遍的価値を学ぶ（『産経新聞』2017年3月25日・朝刊）
- ・道徳教科書 型に縛られない授業を（『毎日新聞』2017年3月26日・朝刊）
- ・道徳検定教科書 考えて議論する授業の土台に（『読売新聞』2017年3月25日・朝刊）